



「新しい考え方で・・・」

副校長 沼崎貴志

先月の夏の甲子園で優勝した仙台育英の監督がインタビューで「青春ってすごく密」と語ったことが大きな話題となり、そのインタビューの中で「全部ダメダメと言われて…活動にストップがかかって…でも諦めずにやってくれた」という全国の高校生への思いも語られました。

このコロナ禍での学校生活は、本校の子どもたちも同じで楽しみにしていた行事の中止や延期、規模縮小を余儀なくされ、さらに会話や接触も制限され、何か物足りない生活を送らなければならなくなりました。しかし子どもたちは、大人が思うよりも発想が豊かで制限のある生活の中でも楽しみや興味あることを見つける素晴らしい力があると感じています。

このような状況下だからこそ大人も発想の転換をしていかなければならない時期に来ていると思います。今月下旬から中学部の校内実習、高等部の校内・産業現場等実習が始まります。コロナ禍の影響で希望する実習先が受け入れてくれなかったり、仕事内容に制限が加わって別な仕事をしなければならなかったりなど子どもたちにとってマイナス面ばかりが目につきますが、違う事業所での経験や新しい仕事の経験ができるというプラス面でもとらえることもできます。

最近行われた全国的なコロナ禍での生活意識調査では、働き方や暮らし方の価値観が変わったと答えた人が6割という結果が出ています。これからは、今までの考え方にとらわれない新しい価値観での時代が始まっていくのかもしれませんが。

今後も社会の変化に応じながら子どもたちの生活や進路に向けた活動を職員全体で全力サポートしていきたいと思いますので、保護者の皆様のご協力をお願いいたします。

高等部2年 進路見学会

7月11日(月)に高等部2学年で進路見学に行ってきました。見学場所は、鎌田水産株式会社、さいとう製菓株式会社、就労継続支援B型事業所@かたつむりの3カ所を見学しました。

見学する前の事前学習では、各事業所について調べ学習を通して、自分で質問事項を考えることを目指しました。今回は、一般企業、就労継続支援B型と異なる事業所を見学し、自分の将来就きたい仕事について、少しずつイメージすることができたのではないかと思います。

今後、後期実習を経て来年の高等部最終学年へと進みます。卒業後の進路決定をするためにも、とても有意義な見学となりました。



気仙圏域ネットワーク会議

8月2日(火)シーパル大船渡を会場に、気仙地区の市町村はじめ就労に関わる関係機関・福祉事業所・本校を含む県内の支援学校等関係者が集まり、気仙圏域ネットワーク会議が開催されました。

会議では、高3を中心として高等部に在籍している気仙地区出身の生徒の進路や卒業生の進路状況、各事業所の現況等について情報交換を行いました。本校の生徒の進路希望状況や福祉事業所の事業内容と施設の様子が話題に出され、それぞれの様子を知る貴重な機会となるとともに、卒業生の活躍を改めて確認することができました。

就労支援セミナー

岩手労働局と岩手障害者職業センターが来校し、就労支援セミナーが開催されました。

岩手労働局からは、岩手県内の障害者雇用状況についての説明がありました。昨年度は、民間企業の実雇用率は2.37%、障害者雇用者数は3,562人、ともに過去最高を更新しました。

岩手障害者職業センターからは、会社が採用したいと思う人材について、「基本のマナー」「作業態度」「コミュニケーション」この3つをあげました。就職してから気持ちよく働き続けられることが大切だと説明していました。

中学部 インターンシップ



7月14日(木)、中学部3年生3名がインターンシップを行いました。就労継続支援B型事業所「星雲工房」で1名、就労継続支援B型事業所「@かたつむり」で2名の生徒が就労体験をしました。

星雲工房では、部品の組み立ての作業を体験させていただきました。とても小さな部品で、部品の向きにも気を付けなければいけない根気のいる作業でしたが、午前午後とも集中して作業をすることができました。「@かたつむり」では、トマトの鉢洗いの作業を体験しました。初めて会った職員の方にも、しっかり報告したりコミュニケーションをとったりしながら仕事をしてることができました。

3名とも始めは緊張した表情でしたが、最後には充実した表情に変わっていました。作業学習や校内実習で培ってきた力を発揮し、最後まで集中して作業することができました。インターンシップで学んだことは、これからの生活や進路を考えるうえで役立っていきたいです。



小中学部・高等部 進路研修会

7月22日(金)に本校図書室・会議室にて進路研修会が行われました。

小中学部では@かたつむり施設長の大西智史氏を講師に、当施設の事業内容について事例を交えながらお話をいただきました。「利用者の特性に合わせた業務を提案していること」「やりがいを感じながら日々成長できる仕事であること」等、利用者の未来を考えながら運営をされている様子を感じられました。また、「30年後の姿はどうあってほしいか」や「働くためにできるだけ『自立』をしておくことが大切」という言葉を受けて、子どもの進路について考えるきっかけになったと保護者の方から感想をいただきました。

高等部では、相談支援専門員として、長年この圏域の障がい者支援に携わってきた近江雅喜氏をお招きし、卒業後の生活について講演していただきました。障がい者福祉の発展についてや、卒業後に利用できる福祉サービスについて具体的にお話しされ、多くの保護者の方から、将来的な見通しを少しもつことができたとの感想が寄せられていました。



~今後の予定~

中学部「後期校内実習」 高等部「後期校内・産業現場等における実習」

9月26日(月)から始まります！

《中学部》

- 10月18日 進路見学会
- 12月中 ようこそ先輩

《高等部》

- 11月29日 技能認定会
- 12月中 先輩に学ぶ会

施 設 紹 介

《あすなろホーム》

運営：社会福祉法人

燦燦会（さんさんかい）

住所：029-2205 陸前高田市

高田町字東和野 37-1

TEL：0192-55-2978 FAX：0192-53-1336



【業務形態】就労継続支援 B 型

【定員】就労継続支援 B 型事業 30 名

【営業日・営業時間】月曜日～土曜日 8:30～17:30

※イベントにより日曜・祝日営業(振替休日有)

【作業内容】

○菓子製造

陸前高田産のゆず(北限のゆず)やリンゴを使用した手作りお菓子の製造・販売を行っています。ふわふわのシフォンケーキやパウンドケーキ、さくさく触感のクッキーなど種類も豊富にあります。

地元の食材を使い、なるべく添加物は入れないといったこだわりの商品ばかりです。北限のゆずを使用した「ゆず麺」や「ゆず塩」も人気です。



シフォンケーキ



りんごケーキ



北限のゆずケーキ



ゆずケーキ作り

○海産物の加工販売

おつまみこんぶ・くきわかめ、藻塩などの海産物の加工・販売を行っております。藻塩以外の商品は、本施設にて加工作業を行った後に工場へ送り、袋詰めまでされたものを仕入れて、販売をしています。

藻塩はあすなろホームにて、袋詰めの作業を行っています。



藻塩



わかめ加工



青のり作業

○受託作業

わかめ加工や、柚子の搾汁作業、海苔の収穫・乾化作業などを行っています。

○施設外就労

陸前高田市のふるさと納税の梱包作業、市内での柚子の搾汁作業、海苔の収穫・乾化作業などを行っています。

○はびなろカフェ

利用者の方が接客や調理の仕事がされています。

カフェ内ではコーヒーやシフォンケーキの他に、かき氷や「たかたのゆめ」を使用したプリンタルトなどをお召し上がりいただけます。



住所：〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字並杉 302 「まちの縁側」内